

なかざわ きよたか  
中澤 清孝

## 新たな気持ちで

●電機連合・書記長

謹んで新春のお喜びを申し上げます。  
2024年が皆様にとって輝かしい年になる  
ことをご祈念致します。

### ～電機連合会館移転、

#### ニューワークスタイルをめざして～

電機連合は、麻布十番・三田小山地区の大規模再開発に伴い、昨年5月に新橋・内幸町に移転しました。移転にあたっては、アフターコロナの働き方を意識した新たなワークスタイルを希求しながらオフィス設計を行ってきました。外部コンサルタントの力も借りながら、スペースの有効活用と働きやすさ、一層のコミュニケーション活性化を目的としたフリーアドレス導入、効率的な資料管理を目的としたファイリングシステム導入、効果的な会議運営をめざした最新鋭のAV・音響機器導入、出張者用のサテライトオフィス機能も兼ね備えたコワーキングスペース設置など、まさに新しい時代にふさわしい、機能的で働きやすいオフィスになったと自負しています。

内幸町の新会館は多くの路線の駅から近く、各方面からのアクセスが便利です。日比谷通りを挟んだ斜め前には日比谷公園があります。東京のド真ん中とは思えないほど、緑があふれる公園です。5月に移転してきてから、猛暑および大雨の日を除き、昼休みはほぼ毎日、日比谷公園をウォーキングしています。お弁当を食べている方、ベンチで休憩している方、

鉄棒を使って筋トレしている方、ジョギングしている方など、多くの人であふれています。季節の移ろいを感じられる植物がたくさんあるのも特徴の一つです。春には桜、ツツジ、バラなど、夏にはユリ、秋にはイチヨウの黄葉や水面にかかるモミジなど、四季折々の植物が見られます。特に昨年春に見たバラ園と夏のユリ園の美しさと香りは格別でした。

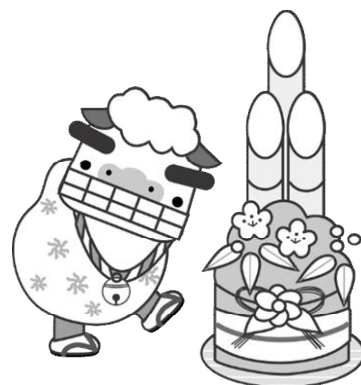
ある秋の晴れた日、黄色い絨毯のようなイチヨウ並木を歩いていると、ゆるやかな風とともに沢山の黄色い葉がシャワーのように落ちてきて、1枚の葉がYシャツのポケットに入った時には、思わず一句詠みたくなりました。昼休みの僅かな時間ですが、喧騒の世界から離れリフレッシュ・癒される素晴らしい公園です。

皆さん、ぜひ一度、日比谷公園を経由しながら電機連合の新会館見学はいかがでしょう。実際、見学に来られる方も増えてきました。ご興味のある方は、ご遠慮なく電機連合までご連絡ください。

### ～電機連合設立70周年、

#### 次なる運動の歴史を～

日本は、構造的課題と言われる超少子高齢化に伴う生産年齢人口減少や社会保障制度の持続懸念などに加え、DX、GX、AIなどに代表される技術革新、アフターコロナ社会における新たな行動様式や価値観の変化など、



様々な観点から転換期を迎えていると言えます。このような中、労働組合という組織の真価も従来以上に問われてくるものと考えます。私たちは改めて労働組合の果たすべき役割と責任を自覚し、変化に適応した新たな労働運動の構築と魅力ある組織作りを一層希求し、次なる運動の歴史を築いていかなければなりません。

電機連合は1953年6月1日の結成以来、昨年で70周年を迎えました。70年という永きに渡り組織を紡いでこられた諸先輩方のご尽力に心から敬意を表します。同時に、受け取った重みのある襷をしっかりと次の世代へつないでいかなければならない責任を感じています。

昨年、70周年記念事業の一つとして運動変革プロジェクトを立ち上げました。結成70周年を迎え、改めて電機連合の今日的な存在意義や、産業発展と社会課題の解決を実現する運動の展開のあり方などについて、一人ひとりが深く考え、真に必要な活動は何かを精査する好機とし、新たな時代に向けて運動変革にチャレンジするというプロジェクトです。外部コンサルタントの力も借りながら、電機連合本部全役職員が4日間のワークショ

ップに参画し論議を始めました。まず、電機連合の理念、基本目標を現代に合わせて再解釈し、電機連合の今日的な存在意義（目指すべき姿）を確認。その結果に基づき、各専門部の活動を再定義し限りあるリソースを有効活用するために、これまでの運動をスクラップ・取捨選択し、新たに必要な活動を加えながら2024年度の運動方針策定をめざしています。

#### ～2024年総合労働条件改善闘争に向けて～

間もなく2024年総合労働条件改善闘争が本格的にスタートします。

昨年から続く歴史的な物価高騰により、実質賃金は前年同月比マイナスが継続しており、生活への影響が顕著となっています。電機連合はこれまで継続した賃金水準引き上げに取り組み、2023年闘争では大幅な賃金水準引き上げを実現することができましたが、物価上昇が続く影響から実質賃金を改善するまでには至っていません。

賃金は組合員の生活の基盤であり、組合員の生活を守るためにも実質賃金を向上させる必要があります。また、中期的には国際的に見劣りする日本の賃金を引き上げ、成長と分

配の好循環を持続的・安定的に回していくことが必要です。今次闘争における賃金水準引き上げは、経済への好循環に結びつけるまさに正念場の取り組みと言えます。これまでの継続性を大切にしながらも、2024年闘争では、昨年の闘争を起点とした積極的な賃上げを一過性のものとせず、さらなる月例賃金の引き上げに取り組んでいきます。